						学年			普通科		必/選	-	単位刻	数		
	科目名				生物		アドバンス		キャリア	スポーツ	以存					
				-	工 100	3	国文	理進	イヤリノ		必須		3			
							0	Δ	0	0	選択					
	兴	고고	生物や	生物	見象に関わり,理	里科の見方・	考え	方を賃	かせ、見記	通しをもっ	て観察,	実験で	を行う	うこ		
	学習		となどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のと											り育		
	目	標	成する	成することを目指す。												
	使	用			斗書:「高等学校 生											
	教	材	副教材	才:「新	課程版 セミナー	ノート 生物	」(第-	一学習	社)							
			⇒ π:	(1)	授業への取り組み	メ (態度・発	問)	(2)机	夏書及びプ!	リントの内タ	容 (3)観	察•	実験等	等の		
			評価	取り約	組み・レポート	(4) 問題集	の取り)組み	(5) 定期	考査・小ラ	テストの5	つの	項目を	を評		
			法	価の	観点別に評価しま	す。										
						定期考査・	小テ	スト、	問題集の	取り組み、	観察・実際	実験等の取り組				
			評	a	知識・技能	み										
	評	価	評価観点	1	思考・判断・	・ 定期考査、板書及びプリントの内容、問題集の取り組										
			\mathcal{O}	b	表現	ポート										
			趣旨		主体的に学習に 授業への取り組み、出席状況、プリントや問題集の提出状況											
				С	取り組む態度 自学自習の取り組み											
						- ,		// /								
			上に示	す観点	L に基づいて、各観点				学年末には観	見点別学習状	況の評価(A, E	3, C	の3		
					 に基づいて、各観点 	京で評価し、学	/期末	および	学年末には観	見点別学習状	況の評価(A, E	3, C	の3		
#10		時		および		京で評価し、学	/期末	および		見点別学習状	況の評価(3、C ·			
期	月	時数		および 学習.	評定(1~5の5段	京で評価し、学	/期末	および	学年末には観	見点別学習状	況の評価(
期	月 4			および 学習: 単	評定(1~5の5月 項目・ 4元	京で評価し、学	対ます。	および	全習内容			評	価方	·法 [
		数	段階)	および 学習: 単 生物の進	評定(1~5の5段 項目・ 4元 化	で評価し、学 で評価し、学 と階)にまとめ	対末はつます。	らよび ^に 学	全習内容			部 a	価方 b	·法 c		
	4	数	段階)	および学習生物の進生物の系	評定(1~5の5段 項目・ 4元 化 総と進化	京で評価し、学 と階)にまとめ 生命の誕生と生生	を期末は ります。 物の進作 理解する	らよび [*] 学 とや多 ^材 る。	全習内容 集性を学び、現	生生物の進化	の道程を多	部 a	価方 b	·法 c		
	4 5	数 22	段階) 第1章 第2章	および学習・生物の進生物の系・一曲胞と分	評定(1~5の5段 項目・ 4元 化	京で評価し、学 と階)にまとめ 生命の誕生と生生	対ます。	ついまび: 学 七や多様 る。 一田胞と	全習内容 様性を学び、現 マンパク質の後	生生物の進化	の道程を多	a O	価方 b	法 c		
	4 5 6	数 22	段階) 第1章 第2章 第3章	および学習・生物の進生物の系・一曲胞と分	評定(1~5の5段 項目・ 近元 化 統と進化 本	京で評価し、学 と階)にまとめ 生命の誕生と生生 まな推定方法でき 細胞膜の性質を学	*期末*)ます。 勿の進作 理解する デジび、系	ついまび: 学 七や多様 る。 一田胞と	全習内容 様性を学び、現 マンパク質の後	生生物の進化	の道程を多	a O	価方 b	法 c		
	4 5 6	数 22	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章	および学習に生物の進生物の系出版と分	評定(1~5の5段 項目・ 住元 化 統と進化 本	京で評価し、学 と階)にまとめ 生命の誕生と生生 様な推定方法で活 田胞膜の性質を学	#期末す。 かの進作 学び、新 エネル する。	および: 学 とや多様 る。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	学習内容 様性を学び、現 アンパク質の代 生み出す呼吸	生生物の進化 受割について理 と有機物を合	の道程を多 E解する。 成する光合	a O	価方 b	法 c		
1	4 5 6 7	数 22 24	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章 (第5章	および学習・単生物の進生物の系・一世胞と分・一世胞と分・一世胞と分・一世胞と分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評定(1~5の5月 項目・ 任元 化 統と進化 子 イ 報とその発現	まで評価し、学生命の誕生と生生 様な推定方法で評価を でする である である である である	# 期末 す。	および	全習内容 発性を学び、現 マンパク質のぞ 生み出す呼吸 で、特定の遺	生生物の進化 受割について理 と有機物を合	の道程を多 E解する。 成する光合	a O	b 〇	法 c		
1	4 5 6 7	数 22 24	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章 第5章 第6章	および学習・単生物の系の分替を表した分替を表した分が、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	評定(1~5の5段) 項目・ 4元 化 な 本と進化 本 イ 報とその発現 発現調節と発生	京で評価し、学 と階)にまとめ 生命の誕生と生生 様な推定方法で活 田胞膜の性質を学 大謝反応である 成について理解 DNAの複製、東	対末す。 物の選が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、	および:	生習内容 様性を学び、現 マンパク質の役 生み出す呼吸 び、特定の遺	生生物の進化と割について理と有機物を合成子の発現に	の道程を多理解する。 成する光合	a O	b 〇	法 c		
1	4 5 6 7	数 22 24	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章 第5章 第6章	および学習・単生物の系の分替を表した分替を表した分が、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	評定(1~5の5段) 項目・ 1元 化 た 本と進化 本 お 報とその発現 取 発現調節と発生 な	まで評価し、学生ので評価し、学生のの誕生と生生業な推定方法で活動原の性質を学せませないて理解のないて理解の対力の複製、東のメカニズムと	対末す。 物の選が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、	および:	生習内容 様性を学び、現 マンパク質の役 生み出す呼吸 び、特定の遺	生生物の進化と割について理と有機物を合成子の発現に	の道程を多理解する。 成する光合	a O	b 〇	法 c		
1	4 5 6 7	数 22 24	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章 第6章 第7章 応用	および学生物のの系の分を担け、対しているのでは、対しないでは、対しているのでは、対しないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	評定(1~5の5段 項目・ 1元 化 統と進化 本 報とその発現 取発現調節と発生 会投防技術とその	まで評価し、学生ので評価し、学生のの誕生と生生業な推定方法で活動膜の性質を学れました。 でいて理解 DNA の複製、車のメカニズムと表して子を扱う技	対すす。 物理学エナー 写もにつ	および:	を習内容 操性を学び、現 アンパク質の名 生み出す呼吸 でび、特定の遺 る。 び、農業や医	生生物の進化 と割について理 と有機物を合 伝子の発現に 療への応用技	の道程を多と解する。成する光合のいて発生	a O	b 〇	法 c		
1	4 5 6 7 9 10	数 22 24 29	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章 第6章章 第7章 第7章 第8章	およっている。おります。おります。おります。おります。おります。おります。おります。おります	評定(1~5の5段 項目・ 4元 化 統と進化 本報とその発現 報とその発現 発現調節と発生 ・扱う技術とその がと行動	まで評価し、学生の証生と生生の証生と生生業な推定方法で活動膜の性質を学れませいて理解のないて理解の外人の複製、事のメカニズムと表している。	対すす。 物理学エナーラと術して の解が、シーのでは、これで ののでする。	および:	を習内容 操性を学び、現 アンパク質の名 生み出す呼吸 でび、特定の遺 る。 び、農業や医	生生物の進化 と割について理 と有機物を合 伝子の発現に 療への応用技	の道程を多と解する。成する光合のいて発生	a 〇	価方 b	法 c 〇		
1	4 5 6 7 9 10	数 22 24 29	段階) 第1章 第2章 第3章 第4章 第6章章 第7章 第7章 第8章	およっている。おります。おります。おります。おります。おります。おります。おります。おります	評定(1~5の5段) 項目・ 4元 化 た 世報と進化 本 日本 報とその発現 取り技術とその は 本 お お こ お <t< td=""><td>まで評価し、学とととととなってまた。 生命の誕生と生生 様な推定方法で活動反応で理解・ ではついて理解・ ONAの複製、車のメカニズムと 遺伝子を扱う技 る。 動物が刺激に対</td><td>対ます。の解びネる写もにてる。</td><td>および、学を多り、とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ</td><td>生習内容 様性を学び、現 マンパク質の後 生み出す呼吸 び、特定の遺 る。 び、農業や医 うな反応をす</td><td>生生物の進化と有機物を合った子の発現に療への応用技</td><td>の道程を多理解する。 のいて発生</td><td>a 〇</td><td>価方 b</td><td>法 c 〇</td></t<>	まで評価し、学とととととなってまた。 生命の誕生と生生 様な推定方法で活動反応で理解・ ではついて理解・ ONAの複製、車のメカニズムと 遺伝子を扱う技 る。 動物が刺激に対	対ます。の解びネる写もにてる。	および、学を多り、とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	生習内容 様性を学び、現 マンパク質の後 生み出す呼吸 び、特定の遺 る。 び、農業や医 うな反応をす	生生物の進化と有機物を合った子の発現に療への応用技	の道程を多理解する。 のいて発生	a 〇	価方 b	法 c 〇		
1	4 5 6 7 9 10	数 22 24 29	段階) 第 1 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章	お学物物と遺伝伝ののとは、一番ののとは、一番ののとは、一番のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	評定(1~5の5段) 項目・ 紅元 化 た 世代 本 よ よ よ よ よ よ よ よ よ <td>まで評価し、学と性)にまとめます。 生命の誕生と生生 様な推定方性質を 成について理解の DNAの複製、ムとする。 かカニを扱う技 る。 動物がて理解する。</td> <td>対すする ない はい ない かい かい</td> <td>および、学ををとうをは、というというというというというというというというというというというというというと</td> <td>を習内容 様性を学び、現 マンパク質のぞ 生み出す呼吸 び、特定の遺 る。 び、農業や医 うな反応をす</td> <td>生生物の進化と有機物を合成子の発現にないで用技</td> <td>の道程を多 上解する。 成する光合 ついて発生 術を理解す 動の仕組み 上解する。</td> <td>a 〇</td> <td>価方 b</td> <td>法 c 〇</td>	まで評価し、学と性)にまとめます。 生命の誕生と生生 様な推定方性質を 成について理解の DNAの複製、ムとする。 かカニを扱う技 る。 動物がて理解する。	対すする ない はい ない かい	および、学ををとうをは、というというというというというというというというというというというというというと	を習内容 様性を学び、現 マンパク質のぞ 生み出す呼吸 び、特定の遺 る。 び、農業や医 うな反応をす	生生物の進化と有機物を合成子の発現にないで用技	の道程を多 上解する。 成する光合 ついて発生 術を理解す 動の仕組み 上解する。	a 〇	価方 b	法 c 〇		
2	4 5 6 7 9 10	数 22 24 29 21	段階) 第 1 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章 章	お学物物胞謝遺伝伝物物の生態	評定(1~5の5段) 項目・ 4元 化 株と進化 本 報とその発現 発現調節と発生 ・扱う技術とその がる 応と行動 長と環境応答 系のしくみと人間	まで評価し、学生ので評価し、学生ので評価し、学生のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで		および 学 巻 と か と か と か と か と か と か と か と か と か と	を習内容 操性を学び、現 マンパク質のぞ 生み出す呼吸 で、特定の遺 る。 び、農業や医 うな反応をす こどのようなほ な関係性がみ	生生物の進化 と有機物を合 に伝子の発現に ないを学び行 で応をするか理 られどのよう	の道程を多 上解する。 成する光合 ついて発生 術を理解す 動の仕組み な仕組みで	a 〇	価方 b 〇	法 c 〇		

							学年			必/選	必/選		数			
科目名					理科演習			アドノ	ベンス	h . 11 - 7	~ . 18					
					连 件俱省		3	国文	理進	キャリア	スポーツ	選択		1		
								_	Δ	-	-					
3	学習	IZ S	科学的;	科学的な物事・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。科学的に探究する											する	
	目核	票	能力とす	能力と態度を修得するとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観が身につくようにする。												
使月	用教材	才	新課程	二訂版	スクエア最新図説生	上物										
			評価法		受業への取り組み(! ト (4)問題集の取											
•			評	a	知識・技能	定期	考査・小テ	スト、	問題集	の取り組み、	観察・実験等	等の取り約	 組み			
Ī	評価		価観点の	b	思考・判断・ 表現	定期	考査、プリント、問題集の取り組み、観察・実験等の取り組み・レポート									
			趣旨	С	主体的に学習に 取り組む態度	授業	への取り組	み、出	席状況	L、プリント ^{&}	や問題集の提出	出状況				
				上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)												
	1		および評定 (1~5の5段階) にまとめます。													
期	月	時		学	習項目・		学習内容								法 	
-	1	数	生命現象	おレ肠癌	単元	A	タンパク質の構造から同化・異化など代謝について学び、嫌気							b	c	
1	$\begin{vmatrix} 4 \\ 5 \end{vmatrix}$	7	・生体物	物質と細 見象を支	 胞 えるタンパク質	呼同	タンパク質の構造から同化・異化など代謝について字び、嫌気									
	6 7	8			現・遺伝子の発現調質	6 造	DNAなど遺伝子の本体の構造を学ぶとともにタンパク質の構造を理解する。タンパク質の合成からバイオテクノロジーなどの具体例を挙げながら学び遺伝子工学に対する理解を深める。								0	
2	9	9	生殖と発 ・生物の ・動物の 生物の ・動物の	発生 ○生殖と ○発生 環境応答 ○刺激の	配偶子の形成 ・植物の発生	動動動	細胞,染色体,遺伝子などのさまざまな視点から学習する。 動物の発生過程に伴う胚の変化と遺伝子発現について学ぶ。 動物が体内外の情報を得て反応を起こすしくみを学習する。 動物行動とそのしくみについて学習する。植物の環境応答の実際 とそのしくみについて学習する								0	
	 ・非金属元素・典型金属元素 ・遷移元素・無機物質と人間生活 有機化合物 ・有機化合物の基礎 ・脂肪族化合物・芳香族化合物 						周期表に基づいて、代表的な非金属元素・典型金属元素・遷移元素 の単体と化合物の性質を理解する。私たちの生活に深く関わってい る無機物質や、金属の利用について理解を深める。 有機化合物の一般的な特徴を理解し、その分類や性質および、分析 方法について理解する。酸素を含む脂肪族化合物の構造や性質を理 解する。芳香族化合物の構造や性質を理解する。染料や医薬品、合 成洗剤、食品など身近な有機化合物について理解を深める。									
3	1	3	高分子 (((合物・合成高分子化)	タ	ンパク質や	アミノ酉	変などσ	身近な天然高	が 分子化合物の が 近な合成高分	成り立	0	0	0	
					化合物と人間生活	物	について製	去や構造	造、性質	で用途を理解	する。					

科目名					学年 普通科 必				必/選	軽 単位		数			
				物理			アドバンス		キャリア	スポーツ					
	行日石			柳连		3	国文	理進	7 7 9 7	7,11 7	選択		4		
							_	0	_	_					
	学 習		・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身											身に	
	月 標		・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 付け											⁻ る。	
			・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。												
1	使用教材	-	教科書:〕	東京書籍「特	勿理」(物理7	01) 副	教材:ニュー	ーアチープ	物理						
			評価						リントの内容				• レポ [、]	ート	
			法	(4) 問題:					つの項目を評						
			評価	a	知識・技能		考査・小テス	スト、問題	集の取り組み	、観察・実験等	等の取り組	み			
	評 価		価観点の	b E	思考・判断・君	7-77						且み・レポート			
			の趣旨	c d	E体的に学習に				況、プリント [、]	や問題集の提出	出状況				
					り組む態度		自習の取り約								
				上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価(A 、 B 、 C の 3 段階)および平定($1\sim5$ の 5 段階)にまとめます。											
		n-t-	評定(1~	~5の5段	といい	ます。						-	i /m -l>	4-	
期	月	時数	学習項目	目・単元				学習内容	:				「個方法		
	4		1 / タ	まざまな	・さまざまな運動についての観察、実験などを通して、運動の速度と加速度や、物							а ()	b	c	
	4	12	重動	まさまな		・さまさまな運動についての観察、実験などを通じて、運動の速度と加速度や、物 体にはたらく力との関係等について理解するとともに、それらの観察、実験など									
1	5	16		の運動・剛	に関する技能を身に付け、科学的に考察し表現する。										
1	5	10		合い・運動	・力積や運動量の概念、円運動・単振動について理解し、さまざまな物体の運動に									0	
	6	16		か・単振動・	ついて考察する力を身につけ、万有引力についての理解にも結び付ける。										
		10	万有引力	気体分子	・学習した内容をもとに、ミクロな視点で気体分子の運動について考察をし、気体								0	0	
	7	12	の運動		の状態変化についても理解を深める。										
	9	16	2編 波		・水面波、音や光などの波動現象や電気と磁気の関わり等についての観察、実験な									0	
			・波の伝	わり方	どを通して、波の伝わり方とその表し方、波の干渉と回折や電流・磁界等につい										
2	10	16	・音・光		て理解する										
			3編 電気	気と磁気	に考察し表現する。										
	11	16	・電場と電	≦位・電流・	・電場・磁場にはたらく力の性質や、その関係性を理解するとともに、重力場を含										
			電流と磁場	場・電磁誘	めた場の概念について考察を深める。また、電流と磁場の関係性や、電磁誘導・										
	12	12	導と電磁液	皮	電磁波の性質について考察を深め、電気・磁気についての理解を深める。										
	1	12	4編 原	子	・電子と光 ²	や、原子と原	見子核につい	ての観察、	、実験などを通	近して、電子、	粒子性と	0	0	0	
3			・電子と	光	波動性や、	、原子とス~	ペクトル、原	子核、素料	位子について理	解し、科学的	に考察し				
	2	12	原子と原子と原子と原子と原子と原子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子と同子	原子核	表現する。	また、事物	か・現象 に主	E体的に関	わり、科学的に	こ探究しようと	:する態				
			度を養う。												

							学年		3	普通科		必/選	必/選 単			
科目名					化学			アド	`バンス	キャリア	スポーツ	沙攸		3		
个	半日年	Á			1亿子		3	国文	理進	777	スホーク	必修		3		
									0							
	学習	の	化学的:関する:	な事物 基本的	・現象に関 な技能を身	わり、理科 こ付けるよ	の見方・する。	考え方	を働か	・せ、見通	しをもっ	て観察・	実験な	よどに		
		標	• 化学的	な事物	現象を観察	察、実験な	どを行い、	科学								
I.	± =	п	・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を											養う。		
11 4	吏 月	才	教科書:「化学 Vol.1 理論編」 「化学 Vol.2 物質編」(東京書籍) 副教材:「ニューアチーブ化学」 (東京書籍)													
			評価法	の取	授業への取り り組み・レオ つの項目を討	ポート (4)問題集の	つ取り約)板書及 組み	及びプリン (5) 定期	ノトの内容 考査・小	タ (3)観 テスト	察・身	ミ験等		
			趣評	a	知識・技能	定期考	査・小テン	スト、	問題集	長の取り組	 Lみ、観察	実験等	の取り	(組み		
言	平(西	旨価観	b	思考・判断 表現	定期考 観察・	査、板書 実験等の	及びプ 取り組	リントみ・レ	·の内容、 ·ポート	問題集の	取り組み	-			
			点の	С	主体的に 習に取り む態度	妇 汉耒~	の取り組み習の取り組み		席状沉	己、プリン	トや問題	集の提出状況				
					↓ ばついて、各額 (1~5の5月			よび学	年末に	は観点別学	学習状況の	評価(A、	В, С	か3段		
期	月	時		3項目・		1117	, 9. , 0	KE 🗠	内容				評価方法			
刔	Л	数		, , , , ,	半 儿			子白	门谷			a	b	c		
	4	8	4編 無機 1章 周期		素)学習を元に 、ス・酸素・									
1	5	15	合物		の単体と化	か系・貝刀 ケイ素によ いて理解す		O								
	6 7	20	3章 典型 化合物	金属元	素の単体と	アルカリ金属、アルカリ土類金属、1、2 族以外の典型金属元素について、その単体の性質や特徴、それぞれの違いや用途について確認しながら理解を深める。							0	0		
	9	11	4章 遷移 物	元素の	単体と化合	遷移元素の 亜鉛、クロ	€									
				属イオン	の分離と確		試薬及び水 きす。	溶液と	の反応	について何	催認 し、1ビ ³	子	0	0		
			認			金属イオンの炎色反応や沈殿反応を確認する。また、複数 の金属イオンの系統分離について理解する。										
	10	12	5編 有機 1章 有機 造		の特徴と構	有機化合物 た、構造式 について理										
2			2章 炭化	水素		アルカン・タ私レ構造		0								
_	11	13	9 音 アル	1	と関連化合	名称と構造、製法や反応(付加・酸化・重合)について比較しながら理解する。										
			3早 / ル 物 	- J - / L	76 舆壁化百	アルコール 等の性質や	骏									
			4章 芳香	族化合	物	ベンゼンのスキャー										
	12	8	6編 高分 1章 高分			る。また、芳香族化合物の構造異性体やフェノール類の特 徴や用途について理解する。							\bigcirc			
	1	10	2章 天然			いては、糖 等について	合物について 類の分類と 「確認し、性	類								
	1		3章 合成			合成繊維や合成樹脂、ゴムについて、身の回りにあるもの について考えるとともに、その種類やそれぞれの構造、性										
		8			す役割 の利用とエ	質について	理解する。									
3	2		業的西方 2章 未来	を創る [,]	化学	化学の社会への関わりを考え、意見交換してレポートに まとめたり、発表したりする。また、							0	0		